

ご挨拶

諏訪交響楽団 理事長 丸茂 洋一

本日は諏訪交響楽団149回定期演奏会によるこそお越しく
ございました。今宵、この会場に足を運んでいただきまし
たことに感謝申し上げます。

諏訪響創立85周年を迎えた今年の活動は、本日のピアニスト久元祐子さんと共演するモーツァルトのピアノ協奏曲からスタートしました。久元さんと諏訪響の出会いは、2008年春の信毎ファミリーコンサートになります。繊細かつ練り上げられた音色と研究熱心で豊富な知識をお持ちで、われわれアマチュアと一緒に寄り添って音楽作りをしてくださる人柄は、最初に共演させていただいた時から家族のような親密さを感じていました。そしてショパン生誕200年にあたる今年、定期演奏会のステージにお招きしましてピアノ協奏曲第2番を演奏していただくことになりました。第1番に比べて演奏の頻度は少ないですが、若きショパンが感情をそのまま音符にし、聞く人の心を若さの真只中に連れて行ってざわざわと波立たせるような名曲です。この曲はピアノの視点から作曲された曲であり、オーケストラには不慣れな組立になっていますので、オーケストラ全員が信頼を寄せるピアニストとでなければ演奏できなかつたと、改めて感じます。このような記念の年にショパン演奏の第一人者である久元祐子さんと共演できたことを、本当に幸せだと思います。



さて、皆様に支えられて諏訪響も85周年を迎えました。今までにいただきましたご厚意や温かい拍手に団員一同心から感謝いたします。この脈々とした歩みは、決して団員の力だけで続いてきたわけではありません。85周年を機に名誉会長より「楽しむ」から「聞かせる」オケに新たな脱皮を、と苦言をいただきました。ここで求められている諏訪響の姿には、身の引き締まる思いがします。住んでいる地域に歴史のあるオーケストラが続いているという誇りに加え、そこに鳴り響く音楽にも誇りを持っていただけるように変わっていかねばなりません。社会人として限られた資質の中で挑戦し続けてゆくのは、大変に困難な事だと思います。しかし、愛される諏訪響としてさらに長い歴史を刻んでいくためには避けては通れない道だと思います。

今宵ご来場の皆様方、85年の節目を機会に新たな決意で進んでいきます諏訪響の音をごゆっくりお楽しみ下さい。そして、引き続き熱いご支援をいただければ本当に幸いです。